

平成28年度 日本史探究Ⅱシラバス

1. シラバス

沖縄県立球陽高等学校

教科・・・地理歴史	科目名・・・日本史探究Ⅱ	単位数・・・2
使用教科書・・・山川出版社『詳説日本史B』	副教材・・・浜島書店『新詳 日本史』	担当クラス
教科目標 我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立つて総合的に考察させ、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		3年 5組 8組

io9i] zrsrz

学期	月	大 単 元	小 単 元	時間	学習内容	評価基準	進度
1 学期	4 月	オリエンテーション ＜近世＞ 幕藩体制の展開	オリエンテーション	1			
			享保の改革と社会の変容 田沼時代と寛政の改革	2 2	農村や都市が変化して幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解できたか。	幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革・田沼時代・寛政の改革を中心にその諸政策について考察できたか。	
5 月	＜近代・現代＞ 近代国家の成立	開国 幕末の動乱	列強の接近と文化・文政時代 天保の改革と雄藩のおこり	2 2	欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、地方からの視点を踏まえて理解する。	列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や文化・文政時代と天保の改革における失敗を踏まえて、幕府の衰退をみる事ができたか。農村の国内工業からマユファクチュアなど近代工業の芽生えが始まり、諸藩の財政・軍事再建から雄藩が出現するにあたっての過程を考察できたか。	
			化政文化	3	化政文化について、学問・思想・美術・生活文化の新たな展開に着目して、文化の中心であった江戸はもとより地方文化の成長にも留意して考察する。	幕藩体制に批判的な化政文学、洋学・国学など新たな学問・思想の起こり、寺子屋などの庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察する。	
6 月	自由民権運動、立憲国家の成立と条約改正	開国 幕末の動乱	開国から明治維新に至るまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。	3	開国から明治維新に至るまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。	日米和親条約・日米修好通商条約の締結、開港による経済情勢の変化に着目して、幕末の政局の転換を理解できたか。	
			明治維新、四民平等と地租改正	3	幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡に至るまでの経過を社会・経済の変化と関わらせて理解する。	公武合体、尊王攘夷運動、討幕運動に着目して、近代国家の基盤を形成となる明治維新の意義を理解できたか。	
7 月	近代文化の発達	殖産興業、文明開化 初期の国際問題と新政府への反乱、琉球処分	殖産興業、文明開化 初期の国際問題と新政府への反乱、琉球処分	2 3	明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。	廃藩置県・四民平等・地租改正・殖産興業政策などに着目して、明治新政府が強力な中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。	
			自由民権運動、立憲国家の成立と条約改正	2	政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚や、欧米諸国以外では初めて制定された大日本帝国憲法の意義についても理解できたか。	
8 月	第一次世界大戦と日本	朝鮮問題と日清戦争 日清戦争後の政治・日露戦争と桂園時代	朝鮮問題と日清戦争	2	日清戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。	日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州への進出の動きは国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察できたか。立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。	
			日清戦争後の政治・日露戦争と桂園時代	2	日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。	日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州への進出の動きは国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察できたか。立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。	
9 月	第一次世界大戦後の内外情勢	産業革命と社会運動の発生	産業革命と社会運動の発生	2	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。	殖産興業政策を基礎に、産業基盤の整備の進行、繊維・軍需産業の発展、重工業の形成などに着目して資本主義の確立過程を総合的に理解できたか。寄生地主制の進展、ストライキの勃発や尾尾鯨事件などに見られる社会運動の発生、それに対する大逆事件などの弾圧に着目できたか。また、出版・交通・通信などの面で生活様式が近代化した身近な例を見つげられたか。	
			第一次世界大戦後の内外情勢	2	第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて理解する。	大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。	
夏 休 み	第一次世界大戦後の内外情勢	恐慌の時代と政党政治の展開	恐慌の時代と政党政治の展開	2	ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。	ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目してきたか。戦後恐慌・関東大震災・金融恐慌・金解禁・世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌などを取り上げ、国内の経済対策と経済の動揺について理解できたか。	
			協調外交の挫折	2	社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。	無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、軍部が中心となって協調外交から山東出兵などの積極外交へと転換していく過程を考察できたか。	
2 学期	大正時代の沖縄、大衆文化、満州事変	大正時代の沖縄、大衆文化、満州事変	大正時代の沖縄、大衆文化、満州事変	3	労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について理解する。日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。	学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。	
			第二次世界大戦の開始から日本の敗戦まで	2 3	恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向の続出などを踏まえ、二・二六事件以降の大軍拡への過程を考察できたか。	
9 月	占領下の日本	占領と民主改革	日中戦争の展開と戦時体制の強化 第二次世界大戦の開始から日本の敗戦まで	3 3	日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうに成り立っていた総力体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空軍の戦禍を被ったことに着目できたか。	
			占領と民主改革	3	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	労働三法・教育基本法の制定などを取り上げ、五大改革をはじめとするGHQによる諸政策が、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気づかせたか。女性参政権が認められ、政党政治が復活する中、主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。	

平成28年度 日本史探究Ⅱシラバス

2 学 期	10 月	高度成長の時代 戦後の沖繩①、55年体制の成立 保守政権の安定、戦後の沖繩② 高度成長下の日本	3	東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。連合国による日本の占領が終結したこと、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に着目して、経済面では経済安定九原則・政治面では警察予備隊の新設に着目して、占領政策の転換について考察できたか。サンフランシスコ平和条約の調印による日本の独立国としての主権回復の意義と安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を理解できたか。	
			3	独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。	保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。	
			3	冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	MSA協定・新安保条約・日ソ共同宣言・日韓基本条約・LTP貿易などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握できたか。	
			2	朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたはずみである社会問題について考察する。	特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。消費の拡大による豊かさの享受、核家族化、交通網の整備などによる都市化、マスメディアの発達などを取り上げる一方農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目したか。	
	11 月	教科書終了後、センター対策 ＜原始・古代＞	1970～80年代の政治の動向、現代の世界と日	3	高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、国際情勢の変化を踏まえて行った国内の政治対策について考察する。冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	ドル＝ショックや石油危機によるマイナス成長に対する政府の行財政改革について、身近な事例を取り上げ、考察できたか。冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。
			旧石器から古墳時代	2	センター過去問等を利用して、復習をおこない、センター試験に対応する実力養成を図る。	
			飛鳥時代	2		
			奈良時代	2		
	平安時代	2				
	12 月		鎌倉時代	2	センター過去問等を利用して、復習をおこない、センター試験に対応する実力養成を図る。	
			南北朝・室町時代	2		
			安土桃山・江戸時代	2		
江戸時代			2			
明治時代			2			
冬 休 み		大正時代	2	センター過去問等を利用して、復習をおこない、センター試験に対応する実力養成を図る。		
		昭和時代	2			
		予想問題で総まとめ	3			
		希望者制による2次試験対策	3			
		希望者制による2次試験対策	3			
3 学 期	1 月	希望者制による2次試験対策	2	各大学の過去問を利用して、論述対策をおこなう。		
		希望者制による2次試験対策	2	各大学の過去問を利用して、論述対策をおこなう。		
3 学 期	2 月	希望者制による2次試験対策	2	各大学の過去問を利用して、論述対策をおこなう。		
		希望者制による2次試験対策	2	各大学の過去問を利用して、論述対策をおこなう。		

2. 観点別評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
評価規準	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について関心を持ち、歴史的思考力を培って国際社会に主体的に生きること課題意識を持って、追究している。	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察している。	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色に関する文献、絵画、地図などの諸資料を活用することを通して、世界的視野に立って追究し、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史の展開、文化と伝統の特色についての基本的な事柄を、世界的な視野に立って、政治・経済・社会・文化などの諸要素と関連付けて理解し、その知識を身につけている。
1	幕藩体制の動揺	文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質から課題を見だし、欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察している。	文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身につけている。
2	近代国家の成立	幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。	幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題を見だし、世界的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。	幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身につけている。
3	近代日本とアジア	世界的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。	世界的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題を見だし、多面的多角的に考察している。	立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。
4	両大戦間の日本と市民文化	第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成に対する関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。	第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成から課題を見だし、世界の動向と関連付けて多面的多角的に考察している。	第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身につけている。

平成28年度 日本史探究Ⅱシラバス

	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
5	十五年戦争と日本 十五年戦争について、国際社会の動向、国内の政治・経済の動向など関連付けながら、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。	十五年戦争について、国際社会と国内の政治・経済の動向など関連付けながら課題を見だし、アジア諸国との関係にも動向に着目して多角的多面的に考察している。	十五年戦争について、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。	十五年戦争について基本的な事柄を、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
6	戦後の日本 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付けて多面的多角的に考察している。	戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。	戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

3. 評価

到達目標を達成できたか		次年度に向けての課題
A (80%以上) B (65%以上) C (40%以上) D (40%以下)	自己評価	
1学期		
2学期		
学年末		